

中齋塾 東京フォーラム
平成 27 年度 第 8 回講話

平成 27 年 9 月 12 日
於 湯島聖堂

三島中洲の学統

8 月は赤城山に籠って三島中洲に取り組んでおりました。昨日、完成原稿を出版社に渡してきました。社稷祭当日の「11 月 23 日に、三島中洲を出版する」と、明德出版社に話をしましたら「9 月 15 日までに完成原稿をください」ということでしたので、昨日渡しました。

明德出版社に行ったら先客がありました。私の知り合いでしたので、一通り挨拶をしたら、ずっとお喋りしっぱなしです。そうしたら私の原稿をひったくるようにして目を通しながら、方谷先生が言われた「義と利」に関するものを、弟子の三島中洲が「義利合一説で出した」というくだりを是非入れてくれと言います。確かに山田方谷先生は話しています。それを三島中洲が受け継いでということは確かにありますけれども、学術書は殆どそれに触れていない。学術書といわれるものは、王陽明のものを三島中洲が直に取っているような感じの解説が結構あるので、それを不満に思っているんでしょう。それから「山田濟齋を是非書いてくれ」と言います。何のことはない自分の身内だからでしょうけれども、私は「ちょっと迷った」と話をしたら「是非、それをお願いします」と言います。

我々が今ここで学んでいるものは、佐藤一齋が湯島聖堂で行っていました。その当時、佐藤一齋は江戸時代最高の大学者でした。お弟子さんで双璧をなす山田方谷と佐久間象山がいます。佐久間象山のお弟子さんが吉田松陰それから小林虎三郎。お弟子さんは三島中洲、河井継之助です。

佐藤一齋、山田方谷、三島中洲ここから先はあまり世間に出ていないけれども、大学で何人にも確認して、山田濟齋、那智惇齋、石川濯堂（梅次郎）と続いています。二松学舎は確かにその学統です。学統は学びの正統派が伝わっています。山田濟齋は、完全に三島中洲の学統を継いでいるので「是非その流れを入れてくれ」と言う。私も「考えたんだけど、どうしようかなと思って」と言いましたら、「入れましょうよ。深澤さんは石川梅次郎先生の最後の弟子だから、深澤中齋だけ外せばいいんじゃないか。それで佐藤一齋、山田方谷、三島中洲、山田濟齋、那智惇齋、それで石川濯堂（梅次郎）で止めておけば良いし、奥ゆかしい。石川梅次郎は、誰が見ても深澤さんの先生だから、その学統を是非入れてよ」と、言うので「入れようか」となりまして、その方の注文を入れ、ちょっと追加の文章を入れることにしました。そうすると明德出版が嫌な顔をして「完成原稿をまた変えるんですか」と言うから「しょうがないよね」と言って、今はそんなことで中洲が進んでいまし

て、けっこう思いがけないエピソードが幾つか出てきました。

幾つかちょっと8月、9月、10月あたりのことを申し上げておきます。

8月は山籠りだけど、22日に創業した会社が40周年を迎えました。内輪で集まって内祝いみたいなことを致しました。

9月はドイツ、ベルリンに参ります。谷口幹事、酒井代表幹事に一緒に来てくれませんか、二人にお願いをしております。ついでにドイツ・ベルリンの話をする、西洋の人は言葉で説明をし、理屈で説明をする。理屈で納得してもらうことがもう民族的に習性になっている。日本人は言葉で言わない、理屈で言わない、ただ感じなさいという部分があります。

こんなことを申しあげるのは、顧問から色々な国際会議に出ると、最後は「愛と魂の問題であるから皆さん考えましょう」で、全部の会議が終わっている。我々は10年20年と会議を続けてきているけれども、愛と魂で止まっているから、今回は愛と魂について掘り下げようではないかという会合だそうです。それで顧問は私に振ってきたという経緯だそうです。

私は、そういう民族性の違いをと考えて、こういうことをしようかと思っています。木内信胤先生が師匠と仰いだハイエク先生が京都へ来られた時に色々と説明をしながら、その場所を見て身体で感じたハイエク先生が木内先生に「一葉落ちて天下の秋を知る」という言葉は、葉っぱが一枚ひらひらと落ちただけではない。何故それで天下の大勢が分かるのかということが、この場で一緒に歩いて身体で感じて分かった。私も日本人の心が分かるという話がありました。

ドイツのどこかで自然を見せながら感じさせるのが良いと思いますが、難しいので谷口さんと酒井さんとで上手く考えて英訳をしていただければと思います。

10月は、先ほど比田井副理事長に言いましたが、佐久市で比田井天来関係の催しが2つありますので、参りたいと思います。

11月の社稷祭は「澁澤栄一と三島中洲に関して」という講演依頼がありますので、今回は意識的に調べましたら、けっこう共通点もありました。共通点は負けず嫌いという点です。そのエピソードで三島中洲は虚弱児で相撲を取ると負ける。負けるばかりで自分はこんなに弱いのかと子供心に分かって、これではならずと志を立てて毎日水を浴びて素振りをし、お爺さんの真似をして御祈りをしたといいます。これを3年間毎日続けたそうです。自分が納得するまでは続けたということですから、負けず嫌いだったと感じます。

恒例の質問

- ・昨日一日、良い日だったなと思われる方
- ・昨日一日、嘘はつかなかった方
- ・昨日「有難う」と言い、「有難う」と言われたか

- ・昨日一日、健康法を実践した方

以前、神社の神官が私を見て驚いていました。それは、礼をする時に普通の方は90度に腰が曲がらないと思っていますが、私は簡単に曲がっているのを見て驚いていました。これは毎日やっていますので、どうぞ皆様もいかがでしょうか。できれば真向法が良いかと思っております。

- ・昨晚、明日を過去形でイメージした方、明日以降を過去形でイメージした方

この間、初めて会った人に少しこのような話をしたら、その人は「思考は現実化するという言葉が好きで、ベースに考えています」と言うから、「また今度ゆっくり話しましょう」と言いました。

- ・このところ自分磨きをずっとしていますという方

先程の難波さんの話にちょっとプラスします。良い物をコピーしていただき有難うございました。もうちょっと詳しいことを知りたければ、国会図書館に良い資料がありますから、この当時の物を見ると良いでしょう。陽明学は実践を旨としますので、行動していただいて見に行かれるとよいと思います。

それから先程いわれた中で、映画『日本のいちばん長い日』は、私も見ました。部分部分を特徴的に描いていましたけれども、安岡正篤先生の「義命の存するところ」が、分からないってことを映画の中では語らせていましたが、映画としては良い映画だったと思います。

安岡先生が終戦直後に絡んでいるも時に、天風先生がやっぱり関係していました。天風先生が録音した談話から、「あれは松坂某という青年将校が兵隊を連れて押し寄せた時に部屋の中にたまたま居た。押し寄せてきた時に、君らは何だ。自分の姓名を名乗るのが先である。軍刀を抜いて来るとは何事だ。しまえと一喝した」

天風先生絡みのことや安岡先生との緊迫したやり取りのことが映画の中に入れて良いなと思いました。終戦直後の物に関しては、色々な資料が今は解禁されています。嵐山に行くとそこら辺のことが色々資料で残っていますから、それを御覧になると良いでしょう。

それから「私を殺してから行け」という科白が結構ありましたが、天皇陛下についている御付きの人達が「これは226と同じだな」と映画の中で言わせていたので、なるほ

ど、そういう 226 が非常に強烈に残っていたんだなという部分があります。ただ日本人としては終戦時の状況は、本を読むなり、映画を見るなりして知識を入れておいた方がよいと思います。

今回の三島中洲の中にもあえて入れましたけれども、中洲の漢詩でアメリカ、ソ連、韓国、そういう国々が日本を狙っている。我々も他の国々を狙って植民地化しなければいけないのではと。富国強兵策をやろうみたいなことを漢詩で書いていました。当時の普通の常識だからと思ひまして入れることに致しました。

日本はやっぱり、戦争を始めねばならないような仕掛けをされていたことが一点。日本人自体が先進諸国の真似をして、植民地を作らないと日本が生きていられないという中からの突き上げ。それから日本の国体というのかな、軍人が力を持ってしまった。それで戦争を始めるのも終結させるのも、何となくでいっているから、日本国の権力がどこにあるのかということが、どうも曖昧模糊として進んでいったなと思っています。色々な資料を御自分で探して読み解かれると良いでしょう。

一度、天皇陛下はこの戦いは止めると宣言したのにも関わらず重臣達は聞かなかった。だからもう一度宣言をしています。宣言をしたら受け入れるかと思ったら、そうではなかったということが見えてきます。歴史というものは、段々変わってきてしまうということを感じました。

論語の視点 (子路 第十三)

【二三】子曰く、君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。

自分は君子型か小人型かと考えればよいでしょう。君子は大人物と捉えれば良いです。大人物と小人物で、大人物は人と仲良くはなるが、心の底から一致するかというと、なかなか一致しない。

小人物は「あなたの言う通り」と、すぐ言うような上っ面で軽い人は、小人。「握手を」と求められれば簡単に握手をして、「名刺交換を」と言うとすぐ名刺交換をして、それで人をどんどん持ち上げるが、腹の中では舌を出している。顔には出さない。だからこの辺は自分に置き換えて考えれば良いと思います。

私はここで思うことは、お葬式です。誰かが亡くなったと聞くと、あの人とは、お別れをしようと思うと、遠くても時間が無くても皆キャンセルして出掛けて行く。上っ面の付き合いだけでしたら行かない。

本当に付き合い合っていた人は、遺族が迷惑でも押しかけて行く。私は、毎日あちこち出張していますけれども、親友が亡くなった時は必ず出張先から帰ってきて線香をあげて手を

合わせて、また出掛けることを自然と1週間やりました。「親友」という字も最近は、心の友という「心友」に、頭の中ですけど今は変化しています。それは何かと申し上げますと、上っ面の付き合いではなくて、腹の中から付き合い合っていたという気がします。できるだけ、そういう心の底から本音で語り合えるような友人がいると良いですね。一人見つけたら大したものです。

【二四】子貢 問いて曰く、郷人 皆 之を好せば如何と。子曰く、未だ可ならずと。郷人 皆 之を悪まば如何と。子曰く、未だ可ならず。郷人の善なる者、之を好し、其の不善なる者 之を悪まんには如かずと。

子貢は八方美人で口八丁手八丁。目から鼻に抜ける才子型で、そんな子貢が孔子に聞いています。「郷人皆之を好せば如何と」は、子貢が腹に一物あって、「郷里の人々から、あの人は良い人だと言われているのは、どうでしょうか」と。一般論ではなく「私は先生どうでしょうね」と、聞いていると思えばいいわけです。

孔子は、皆が良い人だと答えても、それだけでは駄目だ。

それでは、仲間が本当は悪い人だと言っているとしたら、どうでしょうか。

孔子は、それも駄目だと。郷里の善人があいつは良いと言い、悪人からは憎まれるような人だ。

そうすると一番良いのは、仲間の中であの人は良い人だよ、こいつは悪い人だという評判がこもごもになってくるのが良い。それで尚且つ本当に良い人は、悪い人から見て本当に憎いということになってくれば裏打ちされます。

澁澤栄一が「郷人は善なる者之を好し、其の不善なる者之を悪まんには如かずと」については、選挙を考えると良いという言い方をしています。

澁澤栄一の頃の選挙は、お金を使って上手なテクニックを持っている人は当選する。お金が無くて選挙テクニックが下手な人は落選する。落選する人を、あの人は駄目かといえ、そうではない。たまたまテクニックが無く、お金が無かったからだけなので、落ちた人が、みな駄目かといえ、必ずしもそうではない。腹の中が真っ黒でも当選する人は沢山いる。上っ面だけ見たのでは分からないから、本当にその人物の真偽を見分けるためには、自分自身が人物にならないと見分けるだけの能力を持つことは出来ないと言っている。澁澤栄一は解釈をしています。

(谷口幹事) 一つ質問をしてよろしいでしょうか。今のところで両方の意見があると良いとありますが、良い人は良いと言っているけど駄目で、悪い人は悪いと言っている。評

判がこもごもぐらいの方が良いということが、ちょっと引っかけかまして…

「不善なる者之を悪まんには如かず」と、最後に「如かず」がついているから、良い話はもうちょっとあるし、別にもある。だけど子貢が言うのは、その次ぐらいのクラスの者の質問ではないか、もうちょっとまともな質問をせよと、孔子が子貢に返した言葉だと思います。

友は類を呼ぶだから、善い人があの人が良い人だと言うが、たいがい悪い者同士でもあの人が良い人だよと言うから、悪い人が悪いと言うことは悪いということに裏打ちしています。でもそう言っても、見る目がお前になれば駄目だから皆、君子型になっていくように努力なさい。お前はまだこういう質問をするには早いということが入っていると私は感じています。

(谷口幹事) 悪い人は悪いと言ってよいと言うけども、逆はやっぱり書いてないなと思ひまして…

それは「察しなさい」ということだと思います。

テーマ

倫理道徳心の欠落 (明治日本女性の精神を貫く婦道 (ふどう))

今月のテーマ「倫理道徳心の欠落」を見ると、酒井代表幹事が頭の中に浮かびます。論語をどう女性は活かすべきかみたいなのをやらなければいけないと思っていたら、マラソンランナーの有森裕子さんが「スポーツには人を元気にする力があります」と書いてあります。この間カンボジアの小学校を訪問した時に、有森裕子さんが学校の開設に努力したと竹岡さんが話していました。

女性は今とても活躍をしている。またはもっともっと活躍する人が出てくると思います。日本人の女性は素晴らしいと外国の人達が言う。女性も男性も素晴らしいなら良いのですが、そうではない。日本の女性は何か秘密があるはずだということで、その秘密は婦道ではないかと言う。特に江戸時代の女性の磨き方は素晴らしい。

先ほどの佐藤一斎の孫に士子 (ことこ) という女性がいます。士子はお爺さんにしつけられて明治の女性として素晴らしい生涯をおくりました。その士子が徹底的に仕込んだのが総理大臣になった吉田茂です。吉田茂の孫が今、副総理をやっている麻生さんです。我々が学んでいる儒学は、日本の中枢を担った人間があちらこちらで活躍をしている。マクロで見ると、みな学縁で繋がっている感じが致します。

紹介書籍

『女子の武士道』石川真理子著 致知出版社

日本の女性、特に明治時代の女性は素晴らしかったといえる。今日は三島中洲の話が多いですけど、また絡みをちょっと付け加えると、三島中洲が教えた女性に平塚らいてう、嘉悦孝という女性がいました。嘉悦孝は嘉悦学園を創立しました。平塚らいてうを教えたのは短い期間ですが、明治時代の女性が論語を覚えたいと思って覚えた。教わりたいと思って教わった。だいたい教育者になっていますし、学校をつくり創業者になっています。

ということで、日本の女性は男性と比べると、素晴らしい感性を持っているという感じがします。だいたい男の方が単純明快。男は単純で女性の方が複雑。権謀術策は女性の方が上手だと感じます。

時事評論

新聞の見方は何度も申し上げていますが、最近の若い人達は、テレビは見ない、新聞も見ない、それで新聞を見ている姿を友達に見られると恥ずかしい。最近そういう学生が多いそうです。新聞を読んでいるところを見られると恥ずかしいという感覚は、ちょっと考えられないことです。

我々が新聞やその他メディアを見る時には、3つの視点で見ましようとお話をしています。それに最近はちょっと加えて、一面トップはやっぱり最初にどうしても目に入るからパッと見るとは見る。今回の一面トップは、9月12日読売新聞で「東日本豪雨 茨城・常総孤立なお188人」

そういえば今朝は地震がありましたね 5弱です。天災地変が出てきていることは気にしたほうが良いでしょう。

御自分の家にある飲み物、食べ物をもう一回見直したほうがよいでしょう。とんでもない災害が来た時は、3ヶ月は助けが来ない。峠は3日ですけども、だんだんと政府やその関係者の言うことが伸びています。最初は3日間でしたが、次は1週間、その次は3週間と、最近の3ヶ月は自分で生きていく術を持たないと、ということが出てきています。

東日本大震災の時には、濁流に社員がのまれた、流されたと色々な話がありましたけれど、今回の水害で関係者が亡くなった人はいなかったのですが、コンピューターは被害に遭って使えなくなりました。

こういうことを見たら、自分に置き換えて、また考えなければいけないと3つの視点以外のも見ておく必要はあると思います。

9月11日の夕刊・読売新聞に、「100歳以上 初の6万人超 45年連続最多更新」と、書いてありますが、こういう記事を見た時に自分の頭の中に入っている色々な情報・知識それと繋がり合うかどうか、他のものと連想で出てくるかどうか。

私はこれを見た瞬間に一番氣になったのは、高齢者が61568名、昨年と比べて2748人増えたと書いてありました。女性がその内87%を占めている。そうですかとしか言いようがないけども女性の87%は良いですね。良いというのが1つ、それから大変だと。大変だというのは、私の母が97歳で亡くなりましたが、亡くなる2~3年前は、もう早くあちらへ行きたいと言っていました。「どうして」と聞くと、「友達が皆いなくなった。同じ話、共通のことが語れる人がいなくなった。これは凄く寂しい」と。ここで100歳以上のお年寄りがどんどん増えるということは、良い事か悪い事かを本気で考えなければいけない。自分の周りを見て、もう何にも訳が分からなくなって、ただ命を繋いでいるという状態を、あちこちでよく見ます。考えさせる問題だと思う。それから自宅で亡くなりたいという人が多いけれども、自宅で亡くなった時お医者さんがいないと警察が来ます。警察が来て殺されたんじゃないかと調べる。日本の国はおかしいですね。それで、きちんとした返事が出てこない司法解剖をします。

巢鴨の御地藏さんにお爺さんお婆さんが一所懸命に通って、ピンピンコロリとお願いすることは、あれはやっぱり理想だろうなという氣がします。

この記事から思うことは、自分が大体いつまで生きていたいのか、どういう状態か、またいつまで生きていて欲しいのかもあります。そういうことを真剣に考える時期であろうという感じがしています。

ちなみに現在、遺言状を書いてある方どれくらいおられますか。

遺言状も、専門家に頼んで知識を入れて書かないと思いつりにいけません。それで思いつりにいくのが良いか悪いかは別として、でも自分が最期を迎える時にはこうであるということは、遺言で書く練習をしておいたほうが良いと思います。書いて1年ぐらい経って、ここは直そうということが当然でできます。自分自身の決着を、どう自分でつけるかは、やっぱり必要ですね。

同じく昨日の夕刊・読売新聞で、「日本外交団にテロ」呼びかけとあります。イスラム国が名指しをしている。支持者に対して、日本の外交団を狙ってテロ攻撃を行うよう呼びかけた。現時点ではノルウェーと中国の男性2人を人質にしていると載っています。

これ絵空事ではなくて本当にやりますから、これはあり得る。外国に行く時に、特に日本政府に関係した形で行く時は、氣をつけたほうがよいと思います。多少なりとも何かその時の心構えを持つのがよいでしょう。

我々の心構えも…これも流行り言葉ですね。9月12日の読売新聞に、宮城県大崎市で「渋

井川決壊 大崎 400 世帯被災」と書いてあります。被災した方の話を見ましたが、そこに「大雨のニュースを見ていたが、まさか自分の家が水に浸かるとは」とありました。

大概、人間は自分が巻き込まれると大変だということになる。想像能力が欠如してきている訳でしょう。新聞・テレビ・メディア等を見た時に、自分に置き換えて見るという能力が、かなり無くなってきているという気がします。

この方は、自分の家が水に浸かるとは思いもしなかったけれども助けられた。命拾いをしたと思うと全身の力が抜けたと新聞に載っています。

生きていると、ヒヤッとすることはあります。タクシーに乗っていたらとか、自分が運転していて交通事故に遭った。また電車のホームに立っていると人波に押されて落ちそうになったとか、ヒヤッとする体験はあるはずだから、これからはヒヤとした時には、その先どうなるかなと一歩先へ進んで物を考える癖をつけたほうが良いと思います。

あと世界の動きは、やっぱり日本に色々な形で波及していますから、よく新聞を見ること、テレビを見ることです。メディアを見る時には、自分の情報・知識を出来る限り色々なところにアンテナを張っていただく。それが自分に直結してくるから、そこら辺お氣をつけたいと思っています。

これにて終了に致します。有難うございました。